

令和3年度第1回静岡県スポーツ推進審議会 議事録

期日：令和3年7月2日（金）

時間：午後3時から

会場：県庁別館9階特別第二会議室

事務局：	<p>お足元が悪い中、皆さんお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから令和3年度第1回静岡県スポーツ推進審議会を開催いたします。</p> <p>コロナ禍の中の開催に当たり、感染症対策に御協力いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>お手元の会議資料一式と、パンフレット等のほうを机のほうに用意してありますので、御覧になっていただきたいと思います。</p> <p>パンフレットは5点ございまして、1つはハンディータイプのオリンピックの開催ガイドということで、これを見ていただければ静岡県のオリンピックの開催状況が分かります。そのほか自転車競技の紹介パンフレットが1部、あとロードレースコースの紹介パンフレットが1部ございます。あとパラサイクリングのガイドブック、ラグビーの5つの精神を基にしたラグビーサイコロというのを静岡県のほうで作らせていただいています。後ほどじっくりと御覧いただければと思います。</p> <p>それでは、審議会開催に当たり、静岡県スポーツ担当部長 広岡健一から御挨拶申し上げます。よろしく申し上げます。</p>
広岡スポーツ担当部長：	<p>皆様、お足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。スポーツ担当部長の広岡と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>日頃からスポーツ推進施策の取組に対しまして御理解と御協力をいただき、誠に感謝しております。引き続きよろしくお願いしたいと思っています。</p> <p>昨年度は、本審議会におきまして、コロナ禍におけるスポーツの在り方などにつきまして御議論いただきました。</p> <p>また、メンバー的に申しますと、今年度は、昨年度佐藤委員が務めておられました中体連の会長でございましたが、今年は河合委員になられたということで、よろしくお願いしたいと思っています。豊富な御見識によりお力をいただきたいと思います。</p> <p>コロナ禍でございますので、事務局のほうの挨拶は短めにさせていただきます。</p> <p>そうはいっても1つだけ申し上げたいのは、昨今のこのコロナ禍の中、コロナに打ち勝って県全体の元気を向上させていくためには、スポーツへの関心を引き起こしまして、スポーツに触れ合う機会を創出する</p>

	<p>ことが大変重要だと改めて感じているところでございます。</p> <p>皆様の御議論をしっかり施策につなげていきたいと思っておりますので、本日は忌憚のない御意見をよろしくお願ひしたいと思っております。以上でございます。</p>
事務局：	<p>本日は岩水委員が急遽欠席になりました。委員19名中11名の委員が出席してございます。資料9の静岡県スポーツ推進審議会条例第7条第2項に基づく定足数を確保しているため、本日の審議会は成立することを御報告します。</p> <p>なお、委員及び庁内の出席者の紹介は、お手元の名簿をもって代えさせていただきます。</p> <p>また、会議資料はあらかじめ送付させていただきまして、事前に確認をお願いしているところです。事務局からの説明については簡易にさせていただき、なるべく御発言の時間を確保したいと思っておりますので、御了解お願ひしたいと思っております。</p> <p>では、ここからの進行については、スポーツ推進審議会条例第6条第3項により、富田会長にお願ひしたいと思っております。</p> <p>それでは、よろしくお願ひします。</p>
富田会長：	<p>皆さん、こんにちは。よろしくお願ひいたします。</p> <p>今、事務局のほうからもお話がありましたように、活発な御意見をまたいつにも増して頂戴したいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>では、次第に従いまして議事を進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>まず事務局から本審議会への諮問事項について御説明をお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひします。</p>
高倉スポーツ局長：	<p>大変お世話になります。県のスポーツ局長をしております高倉でございます。よろしくお願ひします。</p> <p>私のほうから、諮問事項について説明させていただきます。</p> <p>お手元の資料1を御覧いただきたいと思っております。</p> <p>諮問事項としましては、令和4年度から始めさせていただきます新たな県のスポーツ推進計画の策定ということになります。</p> <p>2に諮問理由と書いてありますが、要は背景になります。</p> <p>現在運用しています第2期の計画につきましては、2018年から本年度までという形になっております。</p> <p>また、その中で、スポーツ基本法の中におきましては、県の計画については国の計画を参酌してつくりなさいということになっておりまして、その段落の中段にありますとおり、国の第3期計画につきましても現在策定作業が進められているところであります。</p> <p>ということで、本審議会におきまして、新たな計画をつくるに当たり</p>

ましては、国の計画を参酌しながらという形でつくり上げるという形になります。

3のところにあります計画の位置づけでございますが、繰り返しになりますが、まず1つ目には、スポーツ基本法に基づきまして、第3期のスポーツ基本計画を参酌すること。

それからもう一つの側面としましては、(2)県の総合計画の分野別計画の側面もございます。後ほどまた説明があらうかと思いますが、県の総合計画の分野別計画の側面での評価もこれから加えていかなければなりません。

そして、今申し上げた県の進捗評価、それから当議会の審議会での答申、こういったものを踏まえまして、これから策定していくという形になります。

策定に当たりましては、繰り返しになりますが国の計画を参酌するということがありますけれども、ページの最後に書いてありますように、上位計画であります県の総合計画の方針も踏まえながら目標値を設定するということ。県、それから市町の行政機関、スポーツ関係団体の皆さん、企業、学校、地域、家庭、こういった様々な皆さんとも取り組むこと、それぞれの方向性を提示していくという形になります。

見直しの体制につきましては、県条例に基づきまして、本スポーツ審議会に諮問するということ。

それから、また後ほど説明がありますけれども、次期スポーツ計画の体系案の柱ごとに特定テーマを設定して議論をいただくという形になります。

この体系案につきましては、先ほど広岡部長からも説明がありましたけれども、この第2期の計画の中では、2019年のラグビーワールドカップがあり、それから今年いよいよ開催を控えているオリンピックがある中で今コロナという大変なものを背負いながらという情勢があるんですけれども、そういった中で本当にスポーツというものがどんなふうこれから社会に役立つといいいますか、スポーツで何を支えていくかみたいところで体系(案)を考えております。また後ほど事務局から説明させていただきますが、そういった面でぜひ御審議をいただきたいというふうに思っております。

それから、基本法の第10条に基づきまして、県教育委員会の意見を聴くために事務局側で参集いただいております。

本年度のスケジュールにつきましては、本日の審議会を皮切りに、この秋9月から11月ぐらいには分野別の部会を開き、12月ぐらいには本審議会に中間報告をさせていただきます。議会のほうにも状況を報告したいと思っております。年が明けましたら、パブリックコメントで県民の意見も反映し、最終的には3月の審議会のほうで次期計画のほうを提示するという形で今考えております。

こういった形で御審議のほうをお願いしたいと思います。どうぞよろ

	<p>しくお願いします。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明に何か御意見や御質問などございましたら頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>本審議会としましては、この諮問を受けまして、令和4年3月に次期計画策定を目指して、皆さんと一緒に審議をしてみたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか、御質問は。</p> <p>(挙手する者なし)</p> <p>それでは、今もお話がありました、次に静岡県スポーツ推進計画の策定に関しまして、現行計画の概要とこれまでの取組の進捗状況について御説明をいただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>大石スポーツ政策課長：</p>	<p>スポーツ政策課長の大石です。</p> <p>第2期静岡県のスポーツ推進計画につきましては、3ページ資料2にありますように、スポーツの聖地づくりを目指しまして、6つの施策の柱ごとに指標を設定しながらやってきました。それぞれスポーツ参画人口の拡大、スポーツの環境の基礎となる「人材」と「場」の充実、スポーツを通じた多様性のある社会の実現、スポーツを通じた地域の活性化、競技力の向上、クリーンでフェアなスポーツの推進という形で、これまで平成29年度から本年度までの4年間でやってきました。</p> <p>各指標につきましては、残念ながら昨年度コロナがあった関係で令和2年度の数値が軒並み低迷しているというのは致し方ないところではあると思いますが、このコロナ禍を踏まえましても、スポーツ参画人口の拡大につきましては、若干ではありますけれども、全体では伸びているような状況でございます。</p> <p>ただ、目標値の65%につきましては、これは国の計画と同じにしていますが、なかなかそこまでは届いていないところですが、着実に伸ばしているところです。</p> <p>ページめくっていただいて、4ページになりますけれども、このスポーツの聖地づくりをどうやっていこうということで、庁内ではスポーツの聖地づくりのプロジェクトチームを組みまして、全庁を挙げた形で推進してきました。</p> <p>それぞれ今6つの柱を4つのタスクに分けて、それぞれタスクフォース1が参画人口の拡大、2が人材と場の充実、3が地域活性化、4番目が競技力の向上という4つのタスクでいろいろな事業を進めてまいりました。細かいタスクの内容につきましては、その後、折り込みになっておりますけれども、A3の紙に書いてありますとおり、それぞれ進めてきて、この4年間スポーツの聖地づくりに取り組んできたというよ</p>

	うな状況になってございます。以上であります。
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの御説明に何か御意見、御質問などございましたら頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。いかがですか。</p> <p>(挙手する者なし)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、次に事務局から、次期静岡県スポーツ推進計画策定に当たり参酌する必要がある国の第3期スポーツ基本計画の策定状況について説明をお願いしたいと思います。</p>
大石スポーツ政策課長：	<p>それでは、9ページをお開きください。資料3となつてございます。</p> <p>これは、国の第3期スポーツ基本計画の策定についてということで、国のほうの諮問の概要になります。</p> <p>今年の4月21日に、国のスポーツ審議会の総会におきまして、室伏広治スポーツ庁長官から、第3期スポーツ基本計画の策定についての諮問が行われました。今後、令和3年度中に、第3期スポーツ基本計画のほう策定される状況になってございます。</p> <p>ちなみに、第2期スポーツ基本計画を行ってきて取組結果としては、こちらに書いてある丸4つのおり、スポーツの実施率の向上、スポーツ国際戦略、それからガバナンス改革等などをやってまいりました。</p> <p>その中で、成人の週1回、先ほどの65%目標と同じものなんですけれども、計画策定時と比較していずれも上昇しているものの数値目標には十分とは言えないと。少子化が進展する中、やはり運動部活動の改革、地域における青少年のスポーツ環境の整備等が急務の課題ということで、本県でも同じような課題が生じているところでございます。</p> <p>それから、コロナ対策、デジタル化、少子高齢化・人口減少、地域間格差、共生社会など、この辺の課題解決に向けた取組の方向性を明らかにするべきだと。</p> <p>それで、スポーツに関わる全ての人の権利の尊重と安全の確保等を徹底していくということになってございます。</p> <p>これらを参酌しまして、第3期のスポーツ基本計画につきましては、第1には、未来社会における生涯を通じたSport in Lifeビジョン等を含め、2030年以降を見据えたスポーツ政策の在り方の提示ということで、オリ・パラとかラグビー、こちらのレガシーの継承・発展、それから予想される社会変化を踏まえた、来るべき社会像、それから持続可能な開発目標等を参酌するべきだと。</p> <p>今後5年間のスポーツ政策としては、障害者、女性、子供、高齢者の多様な主体の参画、それからスポーツ団体、他の行政機関、地方公共団体等の連携・協力、デジタル技術の応用、多様な財源・資源の安定的な</p>

	<p>確保、おのこの政策目標や具体的施策の達成状況に係る検証・評価等を行いまして、これから私たちが定める地方版のスポーツ推進計画等を策定するという形になってございます。以上であります。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございました。  ただいまの説明に何か御意見、御質問ございますでしょうか。  ここが今後の審議のベースになっていくということでございますので、何か少しでも引っかかるところがありましたら御意見をいただければと思いますが。  よろしいでしょうか。  (挙手する者なし)  ありがとうございました。  それでは、計画の見直しに向けた審議を進めたいと思います。  まず審議事項を3点、計画の期間、そして計画の体系、検討の体制につきまして、合意形成した上で、その後の時間の許す限り、今回の見直しに向けた皆様からの御意見を伺うことにしたいと考えております。  まず目標年次の事務局案について御説明をいただきたいと思っております。  よろしく申し上げます。</p>
<p>大石スポーツ政策課長：</p>	<p>それでは、10ページの資料4、計画期間についてということでお願いしたいと思います。  次期のスポーツ推進計画における目標年次につきましては、静岡県総合計画（新ビジョン）の分野別計画としてこの計画が位置づけられておりまして、現在、次期の静岡県総合計画の期間が4年となつてございます。平成26年に策定した静岡県スポーツ推進計画も4年、29年も4年ということで、今回も4年という形で次期のスポーツ推進計画の策定期間とさせていただきますと思っております。国の計画は5年ですが、静岡県総合計画に合わせるということで、4年とさせていただきますと思っております。以上でございます。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございました。  この点につきまして、何か御意見、御質問ございましたらお願いをしたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。  よろしいでしょうか。  (挙手する者なし)  特に御意見がないようでしたら、目標の年次につきましては令和7年度までの4年間とするということで御異議ございませんでしょうか。  (「異議なし」の声あり)  それでは、事務局案どおりに目標年次は令和7年度として計画の作成に向けて議論を進めてまいりたいと思っております。  続きまして、構成案の骨子について事務局から御説明をいただきたい</p>

	<p>と思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>大石スポーツ政策課長：</p>	<p>11ページを御覧ください。</p> <p>今後のスポーツ局の施策体系の案でございます。新たな時代に沿いましたスポーツの聖地づくりへの取組ということで考えてございます。</p> <p>ここ数年は大規模イベントが静岡県内で続いております。令和元年度のラグビーワールドカップ、それから今年度は東京2020オリンピック・パラリンピック大会の自転車競技が県内で開催されるなど、大規模な国際スポーツ大会が続いている最中でございます。こうした中、コロナウイルス拡大による生活様式の見直しなど、様々な影響が起こっております。</p> <p>新たな計画につきましては、こうした時代の流れを捉えるとともに、先ほど申し上げました国の計画、こちらのほうを参酌しまして、さらに大規模国際大会のレガシーの継承、結果的にスポーツの力を通して県民が幸せに暮らせる社会を実現したいと思っております。</p> <p>そのため、左の一番下にありますように、スポーツを通じた新たな社会としまして、健康づくりの推進、それから共生社会の実現とスポーツ文化の醸成、地域と経済の活性化という3つの柱で、新しいスポーツの聖地づくりをしていこうと思っております。</p> <p>この中には、3本の柱をオリンピック・パラリンピック、それからラグビーワールドカップのレガシーを全体を通して支えること、健康づくりの推進につきましては、幼児から幅広い年代への生涯スポーツの振興ということ、それからスポーツ施設の利用を促進すること。こういった形のものをしていきたいと思っております。</p> <p>そのためにはやはり、共生社会の実現とスポーツ文化の醸成ということで、なかなか今までスポーツ文化という言葉はなかったんですけども、やはり皆がスポーツを身近に感じられるような形、スポーツは身構えないとできないわけじゃなくて、文化として自然とスポーツに触れ合うような形を目指していく。その中にアスリートを応援するといった、するだけじゃなくて、見るとか、支えるとか、そういった状況も生かしていきたいと考えてございます。</p> <p>ただ、それをまた補完するためには、スポーツを通じて地域の社会と経済の活性化というのも重要な要素であると考えております。ただスポーツをやるだけじゃなくて、スポーツをやることによって、それぞれスポーツに携わる人もしっかりと生活していけるし、スポーツをやることによって皆さんの活力が上がっていった生産性が上がるとか、スポーツにはそういった能力があると思っておりますので、その3つが相互に補完し合って静岡県をスポーツの聖地としていくような考え方で、この施策体系(案)のほうを考えてございます。</p> <p>私からは以上であります。</p>

<p>富田会長：</p>	<p>御説明ありがとうございました。  ただいまの御説明に何か御意見、御質問ございますでしょうか。  今説明していただいた、この3つの大きな分野を柱として静岡県としてはスポーツの聖地化を図る、進めたいという御意見、御説明だったと思います。スポーツの聖地であったり、スポーツの文化であったり、先ほど国の政策にもありましたがSport in Life、生活の中にスポーツがある、いろんなスポーツへの関わり方があるというところで今御説明をいただいたところです。  いかがでしょうか。  ちょっと抽象的で分からないというようなところも含めて、これは例えばこういうことも含まれているのでしょうかということも含めて、それぞれの皆さんの分野のところで御意見を頂戴できたらと思うんですが、いかがでしょうか。  どうぞ、お願いします。</p>
<p>星野委員：</p>	<p>星野です。よろしく申し上げます。  この4月から静岡県ラグビーフットボール協会が一般社団法人化しまして、そこの代表理事を務めております。また、こういったスポーツ行政等に関しても徹底してまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。  2年前の2019年ラグビーワールドカップ、今のオリンピック等の情勢から考えますと非常にタイミングがぎりぎり、そしてアイルランド、世界1位にエコパで勝つというような成功とか、ほかにも昨今のアスリート、県民の活躍というのは本当に夢と誇りをもたらすものだと思います。オリンピックの情勢等ありますが、これはもう揺るがない事実であると思っています。  また、スポーツをする環境に非常に静岡県は恵まれておりますので、より一層スポーツへの関心を高めて、県全体を元気にする上ではやっぱりスポーツというのは非常に貴重な存在だなということを再認識している次第です。  より一層、今後は性別、世代とか、あと障害等を超えて、スポーツをするだけではなく、見る、そして支えるということによって、スポーツを通して県民の皆さんがわくわくする日々を過ごせるようにということを県民の文化として定着していただけたらというふうに思っています。  そうなることで、県外の方から、心身ともに本当に静岡県の人というのは幸せで健康的だよねと言ってもらえることになると思いますので、ぜひ引き続き様々なことを御検討いただけたらと思います。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございます。  ほかにもいかがでしょうか。お気づきの点などありましたら。  大きく3つの分野に分けたんですが、これを分けるに当たっても悩ま</p>



	<p>しいところで、これでよいかどうかというところもあるわけです。実はその3つは両矢印のところそれぞれつながっているんですが、密接に関係していて、ここで切ることは難しいという部分もあったんですが、細目一つ一つを見ながら、これはこっちじゃないかという御意見も含めて頂戴できたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
杉山（康）委員：	<p>静岡大学の杉山です。</p> <p>1つ質問なんですけれども、この地域と経済の活性化の中で、この中で話し合っていく目標値みたいなものが割とソフト的な取組での解決策を考えていくということのように見えます。例えば一般的に見ると公共のスポーツ施設は比較的周りにある商業施設と隔離されているような状態で行動、動線が分離されてしまっているようなことも多く見受けられます。そういったハード面の整備に関する提言みたいなものをこの場で話し合っていけるのでしょうか。</p> <p>マークイズの特徴は何かと学生に尋ねると、商業施設でスポーツと完全に分離されていて、マークイズの近くに何かあれば行くけどという答えが返ってきました。逆にスポーツの側から考えられることもあるので、そういったことも含めて議論していいのかどうかということも教えていただきたいです。</p>
富田会長：	<p>お願いします。</p>
大石スポーツ政策課長：	<p>ハード面について日本ハムファイターズが北海道でボールパークの構想をすすめています。そういった事例からも、ただスポーツを見るだけで完結するという時代でもなくなっているというのは確かなことだと思います。</p> <p>ただ、急に例えば草薙の中に何か商業施設、アウトレットを造るとか、そういう話にはなかなかできないと思うんですけれども、いろいろな御意見として、そういうことを話し合ってくださいということも重要なことだと思っております。</p> <p>また、商業施設の話だけではなく、合宿とかをやると、それなりの宿等も近くにあったほうが良いという意見等についても、ユーザー側としてスポーツ合宿をやるときにはこういったものがあつたほうが良いという意見等、御議論いただくと、すぐにはできないとは思いますが、今後の静岡県のあるべき姿とかを議論していく中で参考になると思います。以上であります。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。</p> <p>竹田委員お願いします。</p>
竹田委員：	<p>竹田と申します。よろしくお願いします。</p>

	<p>このコロナの時期で、静岡県内にスポーツジムが様々な場所にできていまして、特に女性の場合はカーブスや24時間体制で営業しているジムなどありますが、そういったジムの活用を県の施策で活用すると非常に身近なものになるような気がしますがいかがでしょうか。</p>
大石スポーツ政策課長：	<p>皆様もいろいろな形でジムの活用していると思います。ジムの一つのツールとして施策を考える場合には非常によいかなと思います。公共側にもジムがあります。その質がどうかというと、また別の問題となりますので、いろいろな民間施設も今後視野に入れて、県民のスポーツ実施率の向上等に資するものだと思います。一概に民間の施設に対して何かやるとか、なかなかすぐにはできない大きな課題だと思いますが、そういった活用方法等も御議論いただくとありがたいと思います。以上であります。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。 水村委員お願いします。</p>
水村委員：	<p>草薙整形外科の水村と申します。よろしく申し上げます。 今コロナの問題がスポーツのみならず、全世界的に大変な問題になっていると思います。スポーツ推進計画は4か年の計画ということなのでコロナは収まるとは思いますが、安心や安全といった要素をスポーツの聖地というとき、全く入れなくていいのかなと計画を見て思いました。これからコロナが収まってもまたどんなことが起こってくるか分からないということもあるので、そういった要素も少し入れてもいいと思いました。</p>
大石スポーツ政策課長：	<p>ありがとうございます。 説明を端折ったところがありまして、11ページの左の2つ目の箱に、基本的な考え方の真ん中辺に、コロナウイルス感染拡大による生活様式の見直し等、コロナを踏まえた様々な対応をとる必要があると考えております。 また、感染症対策につきましては、現在コロナですけれども、いつ何が出てくるか分からないので、留意しながら、コロナとか感染症に打ち勝つためには健康な体が必要だと思いますので、その辺も踏まえた御議論をいただくとありがたいと思っております。以上です。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。 よろしいですか。 じゃあ、石川委員、お願いします。</p>
石川委員：	<p>スポーツ協会石川ですが、この図を見させていただくと、連携をして</p>

	<p>いるというのは分かるんですけど、特徴がないように思う。</p> <p>左上と右上にいわゆるレガシーの競技を持ってきているとなると、60度ずらしたほうがいいのか、三角形を逆三角形にしたほうがいいのか、いろいろ考えられると思います。この絵では、静岡県の考えを示すイメージとして何となくありきたりの図だと思います。</p> <p>上にベースとなる子供から大人までのスポーツの意識を高める図を持ってくるなら、それがベースになる図のほうがいいのかと感じます。一番最初の左上に色々なイベントを掲げて、図に両方ともラグビーと自転車が入っていますから、そこに共生社会の実現とスポーツ文化の醸成といった図を持ってくるほうが両側と合ってくると感じます。</p> <p>私も10年ぐらい前にこういう図を描けと言われて、いろいろ考えたことがあるが、視覚で訴えて、ああこうなんだなというか、静岡らしいねとかというのを出力してくれるとよいと思った。これが悪いと言っているわけではないが、何かそういう配慮があるといいなと感じました。</p>
富田会長：	ありがとうございました。
大石スポーツ政策課長：	<p>この図は、スポーツの聖地ということで、様々な方々がいろいろな立場で関わっていただきたいというようなイメージで作りました。なので、この3つの丸がそれぞれどこが上とか、そういったことは考えていなかったところでもあります。</p> <p>ただ、最終的な目標としましては、共生社会の実現とスポーツ文化の醸成というのは基本中の基本でありますけれども、静岡県民の皆さんが健康な生活を送っていただきたいというイメージがあったため、これを一番上の三角形にしました。</p> <p>ただ、健康な体があってこそ、いろいろなことができるという思いを持っていただくため、それを支える形で、スポーツ大会のレガシーを生かしていこうという形になっております。</p> <p>大会のレガシーにつきましては、するだけではなく、みるほうもいろいろ育てていくというイメージもあったため、共生社会の実現だけに関わるわけではなく、健康づくりや地域の活性化にもそれぞれ関わっており、3つ全てに関わっているというイメージで作ってございます。以上であります。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。</p> <p>秋本委員、お願いします。</p>
秋本委員：	<p>障害者スポーツの秋本です。</p> <p>共生社会の実現とスポーツ文化の醸成ってとってもいい言葉だと感じています。障害者スポーツの立場からいいますと、この言葉が入っていることがとてもうれしく、レガシーとしても残っていくであろうと思</p>

	<p>います。</p> <p>共生社会に対して現在考えてくださっていること、聖火リレーの選手の並び方、走る人の並び方にしても多様性を認めるところ、そして、最後、静岡県の最終走者を山本篤選手で閉じてくださるところに、共生社会に向かっていくんだという県の姿勢を感じて、大変うれしく思っております。</p> <p>それを考えていったときに、障害者スポーツに関しては、一般の方もパラスポーツへの関心が大変高まっているように思います。</p> <p>一方で、当事者たちはどうなのだろうかというところが一つの課題だと思っています。障害者スポーツ大会の参加者数の目標値を達成していかない理由を分析すると、様々な要因が見えてきます。</p> <p>例えばそれは学校施設の開放の問題や、小・中・高で学ぶ障害のある子供たちが体育の授業を十分に受けているかという問題、体育施設の問題、就労や福祉関係の問題等であり、この活動指標を支えるものがあり、さらにその下に具体的な施策が重なっていくんだらうと思います。そういったことを考えていただけたらと思います。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございます。 星野委員お願いします。</p>
<p>星野委員：</p>	<p>民間施設の活用と、既にある公共施設の活用について、例えばマークイズのような大型ショッピングモールのようなところに駐車場の空きスペースを使ってフットサルコートを造るとか、映画館のようにスポーツ施設を造るとか、そういうコラボも民間は今活発にやっていると思います。</p> <p>公共施設では非常に広大な敷地とか、行政が管理しているまだまだ使える場所がいっぱいあると思います。そこに民間施設を誘致するという考えもあります。例えば広島のマツダスタジアムのように野球場の横にコストコや大きい駐車場、24時間営業のスポーツジムがあるようなこと。</p> <p>何を申し上げたいかというと、もともと静岡県民というのは点と点をつなぐのが私は苦手だと思っていたので、そのハブ役をスポーツ行政として県にやっていただけるとすごいありがたい。</p> <p>ハード面で既にある公共施設の活用に関しては、まず打ち上げ花火を上げることによって、県外を含めた民間が投資対象になると分かった途端にいろんなチャンスが広がると思っています。まずはそういった一つのシンボリックなところを、ジョイントベンチャーでもいいですし、やるということが重要だと考えます。私もエコパの開発等にも関わらせていただいているので、またぜひお知恵をいただきたいと思っています。</p> <p>合宿の誘致に関して、コロナ禍において、もう今大部屋で寝るという</p>

	<p>のがすごい難しいから、学生用の合宿地のためにカプセルホテルをたくさん造ろうとしているエリアもあって、もう既にできているところもある。そういったところもぜひ研究していただきたい。</p> <p>あと、パラスポーツは本当に今関心が高いと思いますし、学校教育の現場でもジェンダーの件も含めて難しいところがあるんですが、スポーツを通じてだと、生徒たちの浸透度というのも高まると思いますので、そういうところも視野に入れていただけたらと思います。</p> <p>後追いではなくて、静岡県が最初にやるというマインドを持っていただくことで、民間の投資とかでも注目されることになると思います。</p> <p>スポーツ庁もアリーナマネジメント、スタジアムマネジメントということに大量の予算を今考えている。15.5兆円の市場規模にしようとしている中ですので、打ち上げ花火をどんどん打っていただけたらというふうに思っています。以上です。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>具体的な御指摘で、今後の分科会でこういう御意見をもっとたくさんいただきたいところです。ありがとうございました。</p> <p>議論の参考に十分になるような御意見をいただきました。かなり建設的な御意見をいただきました。ありがとうございました。</p> <p>デザインに関しましては、これをちょっとベースにしながら考えますが、また全体をまとめるところでもう一度議論してもいいかなと思います。しっくりこないよという場合には、また御意見をいただければと思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>大きな3本柱については、おおむね御理解をいただけたということでもよろしいかなと私は思っておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>杉山委員お願いします。</p>
<p>杉山（康）委員：</p>	<p>スポーツの聖地づくりが最終ゴールというふうに見受けられますが、例えばスポーツを理解している人にとっては魅力的な言葉に見えるが、スポーツを理解していない方やスポーツとあまり縁がない方にとって、ゴールの姿に価値がないように見えることも事実だと思います。</p> <p>例えばスポーツ部活動の目的は、社会に出て立派な人間になることであり、その手段としてスポーツを利用していることが多いと思います。</p> <p>このスポーツの聖地づくりをした結果、教育、モラル、安全な住みやすい社会にするために必要な非認知能力といったものが向上することで、より静岡県が魅力的になるというゴールが見えるようにスローガンを立ててもらえると、多くの方から理解いただけると思います。</p>
<p>大石スポーツ政策課長：</p>	<p>スポーツの聖地づくりというのは、確かに文化ばかりやっている人にとってみると、何でスポーツの聖地なんだ、私たちがやらないといけな</p>

	<p>いんだとなるかもしれません。</p> <p>明確なスローガンがなかなか言いづらい中で、スポーツの聖地づくりというのは、スポーツ文化って何だと言われると、スポーツが身近にある社会であると思います。</p> <p>県民にとってスポーツが身近なものになっているような社会というイメージでスポーツの聖地を考えて、3つの柱を考えております。先ほど星野委員が言われましたように、スポーツでわくわくさせるとか、静岡で育った子供がスポーツによってすごく健全な子が育つとか、そういったいいスローガン等がございましたら意見をいただきたいと思っております。以上であります。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>実は、事前にこの絵を見せていただいたときに、個人的にはまずスポーツの聖地って何だろうというところを示した方がいいと思いました。定義とまでは言いませんが、私たちが目指すスポーツの聖地はそこだというのを示せたらよいということで、議論しました。しかし、漠然としていて、しっかりと言葉に表せないというところではあります。</p> <p>やはりスポーツが身近にある、生活の中にスポーツが自然にある、それはプレーもそうだし、見ることもそうだし、スポーツボランティアをすること等、そういう関わり方を生活や日常の中に普通にあるということ。それが多様性、子供からお年寄りまで、あるいは障害を持った方まで、いろんな方々が自然と日常の中でスポーツに触れられること、それがスポーツの聖地だという話をしました。ぜひ皆様のお知恵をいただきながら、あるいは審議を進める中で、こうだろうねというものが生まれてくれば、ぜひそういう言葉やスローガンをいただけたらありがたいなと思っております。</p> <p>イメージでしかちょっと伝えられないのが歯がゆいですが、このような状況です。</p> <p>お願いします。</p>
<p>広岡スポーツ担当部長：</p>	<p>スポーツの聖地という言葉ですが、今年度終期を迎えるスポーツ推進計画の第2期計画から使っていますが、皆様の御意見でもあるように、スポーツが身近に、敷居が高いものじゃなくて、身近なものにあるというのが大事かなと思っております。スポーツに関係する方が幼児から御高齢の方まで対象が広がると思っております。これまでは、スポーツをやりたいと思ったときに、いつでもどこでも誰でもソフト、ハードともに環境が整っているところ、それがスポーツの聖地であり、またスポーツを切り口にして人生が少しでも豊かになるというのが大事かなと思っております。</p> <p>またいろんな御意見があるかと思っておりますので、メッセージがうまく伝わるような言葉等について、いろいろ御意見をいただいて、御議論いただければと思っております。以上でございます。</p>

富田会長：	ありがとうございます。 武田委員お願いします。
武田副会長：	<p>批判を覚悟でお話をさせていただくと、スポーツの聖地の実現イメージが、ラグビーワールドカップとオリンピックで創出されたレガシーを継承してスポーツの聖地づくりをするというふうに書いてある。それでいいんですけれども、ラグビーと自転車に偏り過ぎないようにしていただきたい。</p> <p>エコパにラグビーのコートをたくさん造るといような話を伺っているところですが、私が以前スポーツ振興課にいたとき、弓道のインターハイをエコパでやってほしいと袋井市役所にお問い合わせしに行ったときには、エコパへ試合を持ってきても宿泊は袋井にせず掛川と浜松にしようと言われました。エコパにラグビーのコートを増やして、全国からラグビーチームを呼んで合宿をやろうとしても、袋井に宿がないので宿泊施設まで含めた取組が大切だと思います。</p> <p>文化観光部の中にスポーツ関係の部署があるということは、観光と結びつきが強いということがあると思います。だから、宿泊施設まで含めたスポーツの聖地づくりということで、小笠山のアリーナとかスタジアムやいろんな補助競技場をたくさん使って、色々な競技の合宿地として使ってもらえるようにする、その全体的な図面を描いた上でやる方がいいのかなと。</p> <p>御殿場の時之栖はサッカー競技団体をたくさん呼んで、宿つき・サッカーコートつきのという民間でやっているすばらしい施設ですが、ああいうものをぜひ県が今後お金をかけてやっていただければと思います。</p> <p>それから、浜松に新しいスタジアムを造る造らないという協議がされていると思われませんが、建設地が本当にそこでいいのか、そこへ造ったときに誰がどう集まるのかというようなことも御議論いただきたい。</p> <p>みんなが使いやすい施設とは、使い勝手がよくて利用料が安いということだと思いますが、浜松市の施設利用料は高い。県は本当に安くありがたいが、県と同じレベルぐらいに利用料を安くするために、何か方法がないのかなと思います。</p> <p>ラグビーと自転車を批判はしませんが、本当にラグビーは見ていて楽しかったし、恐らく自転車もオリンピックで楽しませていただけたと思いますが、実際に関わる選手が非常に少ないため、聖地といったときに、この競技に特化しないでほしいと思います。</p> <p>静岡は、陸上・サッカー・水泳が中心になってやってきました。静岡はもともとこの3つの競技がすごく強いと言われていた。これは気候の問題だと思いますが、北海道や東北でもどこでもいろんな競技ができるようになってきた時代で、静岡の競技力が落ちているわけではなく、他県が上がってきたと思います。その中で静岡の強化をどうやって進めて</p>

	いくかというのも、またスポーツ振興のほうで考えていただければと思います。
富田会長：	ありがとうございました。 広岡部長、お願いいたします。
広岡スポーツ担当部長：	御意見ありがとうございます。 レガシーという中で、ラグビーワールドカップ、オリ・パラについて表現させていただきました。 ラグビーと自転車競技をフックにはするんですけども、その競技だけではなく、いろんなスポーツに、勢いづいていろいろ広がっていくようなことは当然期待させていただいております。 ただ、確かにこの表現だけ見るとラグビーや自転車だけに特化しているように見られてしまうような部分があったと思います。2つの競技に絞っているわけではなくて、いろんな競技を考えていくというようなこともうまく表現できればと思っております。 RWC、オリ・パラのレガシーとして国際交流の考え方や、自転車の安全教育、オリンピック・パラリンピックの考え方である共生社会の考えにつまみまして残していくということで、ラグビー、オリ・パラの大きな国際大会を運営することで得られるノウハウをしっかりとつなげていきたいという部分がございますので、補足させていただきます。
富田会長：	ありがとうございます。
星野委員：	多分スポーツの聖地というイメージでは、競技力や健康の分野で様々な思いが錯綜します。 スポーツに接点のない方がこれを見ると競技力向上をやるんだなと誤解される可能性があります。もちろん競技力向上も重要な策であるので、特定の分野に偏らずスポーツの聖地に向けた取組を推進していくことを3本柱でうまく物語っていただければと思う。
富田会長：	ありがとうございます。 今いただいたような御意見を踏まえまして、調整の必要が出た場合には柔軟に対応しながら進めてまいりたいというふうに思います。 事務局の構成案を基本として見直しを進めていくということでよろしいでしょうか。 (挙手する者なし) これをたたき台、原案とすることでお願いたします。 それでは、事務局に提示いただいたこの構成案を骨子としまして検討を進めていくということにさせていただきたいと思っております。 続きまして、検討体制についてです。



	<p>前回、平成29年の計画策定のときには、私のほうから、少人数の部会をつくりまして、そこで検討をしたいことを御提案させていただきました。今回も同様の手法でよいかというふうに思うんですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>（「はい」の声あり）</p> <p>3本の柱をおおむね御理解、御承認いただいたということですので、できればこの3つの部会、3本柱につきまして部会を構成して進めていければというふうに考えております。</p> <p>では、具体的な審議体制の事務局案について御説明をいただきたいと思えます。よろしく願いいたします。</p>
<p>大石スポーツ政策課長：</p>	<p>12ページを御覧ください。</p> <p>スポーツ推進審議会における分野別審議体制及び構成委員（案）というところでございます。</p> <p>それぞれ先ほど言いましたスポーツによる健康づくり、スポーツ文化の醸成と共生社会の実現、地域特性等を生かした地域と経済の活性化という3つの分野で皆さんに部会をつくっていただいて、御議論いただきたいというふうに考えてまいりました。</p> <p>健康づくりには、それぞれの世代を通した立場ということで、このAの欄に記載されている方々をどうでしょうかということ御推薦をしました。Bに関しましては、スポーツ文化の醸成と共生社会の実現ということで、共生社会、それから競技力、それぞれの立場を踏まえた形で人選のほうをさせていただきました。地域の活性化につきましては、それぞれ行政の立場とか、地域スポーツクラブ、それから実際に新聞社の方々とか、いろいろなお立場で経済に近い方々や学識経験者の皆様も踏まえまして、このような人員割りという形で御提案をさせていただいております。以上であります。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま御説明いただいた、事務局から提示いただいた原案につきまして、御意見、御質問ございますでしょうか。</p> <p>今回は思い切って若手の委員を部会長という形をお願いをいたしまして、フレッシュなアイデアの方々で取りまとめをお願いできたらということで、私だけが古手になっておりますが、このような案を考えました。御意見をいただければと思います。私はどうしてもこっちがいいという御意見でも結構でございます。何かありましたら御意見下さい。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>（挙手する者なし）</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、この後は、今回の計画策定に向けた「大規模国際大会のレガシーを踏まえたスポーツ推進の在り方」というテーマが出ております</p>

	<p>ので、委員の皆様の方から御意見をお伺いしたいと思います。</p> <p>時間の関係で、お一人分程度でお願いをできたらというふうに思います。</p> <p>資料のほうは、資料の7以降になります。</p> <p>先ほどお話がありましたが、ラグビー、オリ・パラ自転車レースのレガシーを踏まえたスポーツ推進のやり方がある。また、それに特化しないという御意見もいただきましたが、何かお考えがありましたら御披露いただけたらということでございます。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>星野先生、何かラグビーに関してはありますか。あるいは、そこからどう広げていくかみたいところでアイデアがありましたら。</p>
<p>星野委員：</p>	<p>ラグビーワールドカップがよかったのは精神性です。スポーツが持つ倫理観、精神性、ダイバーシティーです。</p> <p>私も静岡聖光でラグビー強いねと言われますが、単純にチーム数が少なくて、ほかが弱いといつも言っていて、実際ラグビーはマイナースポーツだと思っています。</p> <p>ただ一方で、文化活動とかを積極的にやっている方には、体育に対する偏見、スポーツに対する偏見というのは根強くあると思っています。それに対して、スポーツ村からの脱却というのもすごく大切だと思っています。</p> <p>一方で、今までの体育、スポーツを引っ張ってきたのはアマチュア・ボランティア・体育です。この人たちがいたから今があるので、これはもちろん大切にして、そこから進化していかないと、どんどん取り残されていってしまうと思います。</p> <p>私はたまたまラグビーを通じてですけど、こういった聖地化の話に関わらせていただいたのは、民間との連携とか、そういった橋渡しができるんじゃないかなと思っています。</p> <p>補助金、持ち出しでは経営は成り立たない。お金を使うからどうやって稼ぐか、その発想をもう少し入れていかないと、本当に取り残されると思っています。</p> <p>確かに水泳、陸上は盛んですが、今私申し上げたとおりアマチュア・ボランティア・体育に本当に支えていただきました。</p> <p>エコパをパラスポーツの聖地にもしたいなと思っています、いろんなところに声がけをしています。</p> <p>一方で、民間の投資のもとあれだけ広大な敷地があるんだというところを今私は視野に入れていきます。つま恋もアーチェリーとかいろんなところがありましたが、経営体制が変わったりとかで、その辺の受皿として可能性等考えているところでございます。</p> <p>なので、ラグビーの聖地化と言われるのは本当に心苦しいんですけれ</p>

	<p>ども、ラグビーワールドカップで目立ったので、それをきっかけに、ラグビーをきっかけにスポーツを通じて人を育てるとかですね、そういったところで使えればと思う。そこで民間からスポーツ界がなめられずに、投資対象になるし、スポーツは本当に必要だと思ってもらうことが大切。</p> <p>部活も本当は夕方以降ではなくて、本来9時から4時のカリキュラムの中に入っているべきだと思います。海外はカリキュラムに入っています。このことを堂々と言うためにも、私なりにできることがあるんじゃないかなと思って今やっています。皆様の様々なお知恵も拝借できたらなと思っています。以上です。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。</p> <p>そのほかどうでしょう。何かお気づきの点など、あるいはスポーツ振興の上で、このような取組をしていければなみたいなのところも含めていかがでしょうか。</p> <p>教育の現場ではいかがでしょうか。何かありましたら、生徒さんたちへの何かこういう波及効果があった、あるいはそれを育てるためにこういうような取組、あるいは後ろ盾、後押しがあるとうれしいなみたいなのところも含めていかがでしょうか。</p>
河合委員：	<p>初めまして。今年度から中学校体育連盟の会長を務めさせていただきます河合と申します。静岡市の長田南中学校に勤務しています。</p> <p>初めて審議会に出させていただいたので、いい機会だと思っていましたが、中学校の現状を言わせていただくと、佐藤前会長のほうからも聞いておられると思うんですけども、学校部活動から地域部活動への移行は加速して進んでいくのではないかと思います。</p> <p>今日この会に臨むに当たって、運動部活動の加入率を調べてみたところ、中学校の場合、平成29年からもう70%を切り、昨年度は男子の部活動加入が73%で、女子のほうは57%で、全体で66%となっています。</p> <p>また指導者の問題もあり、今年度は中体連として県内で部活動の外部指導員ではなく地域指導員になるかということ进行调查しております。自分の学校を調べてみると、50%はなくても40%ぐらいはいるのかなと思っていましたが、30%ぐらいの率だったので、今まで献身的支えてきたとのだと感じています。</p> <p>やっぱりスポーツの普及のためには、底辺拡大ではないですけども、幼稚園、小学生のほうにも何か運動を伝えていくというような機会があるとよいと思いました。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>武田委員よろしくお願ひします。</p>

<p>武田副会長：</p>	<p>高等学校のほうですけれども、まずは部活動が衰退しないように何とかしなければいけないというふうに考えています。</p> <p>静岡県の場合は、他都道府県と比べるとまだ公立高校が部活動で健闘しているほうではないかと思えます。大都市圏に行けば行くほど、ほとんど私学が部活動の大会上位を占めるようになってきています。静岡の場合はまだ公立高校が健闘しているほうではないかなと思えます。</p> <p>私学であれ、公立であれ、生徒たちが一生懸命部活動に取り組めばよいのですが、スポーツから離れて、高校入試の話をさせていただくと、公立高校が倍率が1.0を割ってきています。静岡県の今までの公立高校に落ちたら私学へ行くという姿が変わってきています。去年も、私学へ合格したから公立高校をもう受けませんという子供たちも出てきています。</p> <p>そういった中で、星野先生がお見えになるんですが、私学はどういうふうに経営していったら、どういうふうに魅力化しているかということ、やっぱり公立というか、県の教育委員会が学んでいかなければいけない時代が来ていると思われませんが、その動きが鈍いと思えます。</p> <p>学校の魅力化の中に、こんな部活がうちの学校にはありますということ、をどんどんアピールしていかなければいけない。私学はたくさんテレビに映る、例えばサッカーであるとか、野球であるとか、駅伝等にたくさんいい選手を集めてくるような形で学校の魅力化を図っている。それで学校の規模を広げて経営をうまく成り立たせているという部分があり、公立高校は学校を魅力化し経営をしていくという観点がなくて、甘いところもある。魅力化を図る必要がある反面、働き方改革により教員の働く時間の削減を図る必要もあり、どちらにも振れられない難しいかじ取りを校長や教育委員会がしていかなければならないことは、公立高校の中で非常に問題となっています。</p> <p>中学生が高校を選ぶときには、その高校にどんな魅力があるかを重視すると思えます。勉強をやりたくてたまらない子が行く学校はもちろんあるが、そうではなくて、仲間と出会いたいから、その学校に行くと思えます。勉強を一緒にやる仲間、文化部の活動を一緒にやる仲間、運動部の活動を一緒にやる仲間、遊びに行くような仲間等を求めて学校を選ぶこととなりますが、その中にスポーツを必ず取り入れるべきだと思えます。</p> <p>先ほど河合委員がおっしゃったように、外部で指導を受けて学校の名前を背負って大会に出るということは、あまり思わしくない状況だと思います。学校の中で活動している生徒を学校の代表として大会等に送り出すという本来あるべき部活動の姿に立ち返ることが必要なのか、外部に任せっ放しにしたほうがいいのか、これからどちらのほうへ流れていくかということ、を見定めていく必要がある。</p> <p>もう一点、コロナでここ2年間、大会や部活動の制限されてきました。1年間丸々ほとんど大会ができなかった時期があり、色々なものが</p>
---------------	---

	<p>スリム化していいという傾向と、1年やらなかったことにより、引き継ぎがうまくできず、何が起こるか分からないという現状があります。高体連でも今年恥ずかしながら大会運営上2つの大きなミスが出た。去年やらなかったため、運営等が分からなくて失敗したという事例です。これでまた今年も大会等ができないとなると、本当に困る事態になると思いますので、その辺の応援をしていただきたいし、大会をやらなかったことで経費がかからなかったことで予算を削減されると困ります。コロナによって失われてしまったものを失わずに済むように、取り組んでいきたいと考えています。よろしくお願いします。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございました。 秋本委員お願いいたします。</p>
<p>秋本委員：</p>	<p>障害者スポーツの秋本です。 レガシーというときに2つのことが考えられます。 1つは自転車のこと、パラサイクリングのこと、もう一つは生活の中に自然とスポーツの環境があることです。 パラサイクリングでは、今までスポーツというのはアマチュア・ボランティア・体育からということがありましたが、自転車というものが新しく出てきたときに、体育とは違う部分でアプローチができる競技だと感じています。 パラサイクリングについては、今コロナで止まってしまっていて体験会等が十分できていない状況ですが、声をかけていくと、やってみたい人、それから支えたい人がたくさんいらっしゃる事が既に分かっています。 これがパラリンピックの後等、クラブが設立されて、その設立や運用について引き続き県が後押ししていただけると、パラサイクリングの輪が広がると思います。視覚障害者の2人乗りのタンデムや肢体不自由の方が乗れるパラサイクル、三輪車等に乗りたいという思いが広がっていくと思います。色々な公園や民間敷地等で走らせていただけたら、本当に身近な場所で自転車が一つ新しいものとして皆さんに受入れられると思っています。 もう一つは、障害者がスポーツに親しむ環境についてです。障害者のスポーツ実施率は一般の方より低い原因は様々ありますが、障害者がスポーツをもっと好きになってほしい、スポーツが好き、スポーツが楽しいと思ってもらうことが大切だと思います。パラリンピックはその転機になると思います。パラリンピックを見て、こんな競技があるんだ、こういうことがもしかしたらできるかもしれないという思いが広がると思います。 この間のオリンピックの聖火リレーも、車椅子の卒業生が走るのを、ある特別支援学校では授業を止めて、全校でその画面を見ていました。</p>

	<p>それだけみんなにとってパラリンピックやオリンピックというものはわくわくするものとして捉えられているようです。</p> <p>パラリンピックの後、生徒がトップアスリートの応援隊という形で触れさせていただく取組が引き続き行われれば、夢とか持ってもらうことができるんじゃないか思います。</p> <p>あとは、身近なところでスポーツに親しめる部分に関して、体育施設の中で車椅子のユーザーが体育福祉施設を貸してもらえないという状況がまだあります。確かにタイヤの跡をつけてはいけないかもしれないが、一般の方と同じように、使ったらきれいにして返すという約束で、使えるところを広げていただけたらと思います。</p> <p>障害者がスポーツを好きになるということについて、学校教育や、就労関係のところでも難しい部分もありますが、福祉施設や障害者団体と協力しながら、色々な場面でスポーツが好き、楽しいと思えるようなところをスポーツ・福祉・学校教育と手を携えて共に考えていけたらと思います。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございます。 青野委員お願いをいたします。</p>
<p>青野委員：</p>	<p>レクリエーション協会の青野です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>先ほど聖地ということでもちょっと考えさせていただいたんですけども、聖地というのは誰もが行ける場所、そしてすぐに手軽に安価に、そして気安くスポーツできる場所、そういうものが一つの聖地になると思います。トップアスリートの育成も大事ですが、一般の人たちが気軽に、歩いて行けるところに教室等々があると非常にいいのかなと思います。</p> <p>スポーツをなぜやらないのか、スポーツ嫌い、運動嫌いな人たちに聞き取りをしたことがあります。汗をかくのが嫌だとか、競技の中で勝ち負けが決まることにストレスを感じる、団体種目で自分がミスすることなどがストレスになるという意見を聞きました。</p> <p>スポーツというと、がちがちに体を鍛えて、勝負に勝つ、勝たなきゃスポーツではないという考え方があって、その考えが足を遠ざけていると思っています。</p> <p>レクリエーションというのは、そののところを少し緩くやって、楽しさを共有しながら体験することが大事なところで、トップアスリートの育成も必要ですが、聖地というのは本当に誰もが行けて、誰もがやれる場の設定が必要だと思っています。よろしくお願ひします。</p>
<p>富田会長：</p>	<p>ありがとうございました。 石川委員お願ひします。</p>

石川委員：	<p>今、中体連生徒の運動部活動の加入率が約70%高体連が約50%で、スポーツ協会のほうには一応、大体30万人ぐらい登録をしています。40競技団体で20%いくかどうかぐらいです。そういった方々にレクリエーションへ参加してもらうために何ができるかということも課題です。</p> <p>皆さんが協会等に所属をしなくても自分で健康づくりのためにやっていたら、構わないですが、そういった競技人口を増やしていくことも必要だと思います。</p> <p>静岡の場合は、陸上、サッカー、水泳がメインでやってきたところで、今回たまたまラグビーと自転車の競技が大きな大会が本県で開催される。非常に喜ばしいことですが、正直なところ、国体ではラグビーは開催県出場以外、一度も本大会に出場して出られていないというのが現実です。そのぐらい正直競技力は低いです。</p> <p>それから、自転車競技も競技人口が少なく、<del>そ</del>国体の予選会もがなく、有能な高校生あたりが優勝してくれて、その後大体卒業してプロに行くという現状状況です。</p> <p>レガシーとして残していくためには、競技人口を増やしていくというのも一つ大切なことじゃないかと。</p> <p>確かに球技は見ていて面白い。ラグビーも私は面白いと思います。だけど、やろうとする層が少ないというのも現実です。やっぱりスポーツというのは、やる人口を増やすことが一番大きな使命であり、その中からはい上がって頂点を目指す子たちが出てくるということが一つの在り方かなと思っています。</p> <p>富士山ではないが、頂点に目的を据えて、その目的に達してくるという形をイメージして、そこが聖地だと私は思っていました。イベント県にはなりたくない。全競技レベルを上げていくという気持ちを持って、策定していただければなと思っています。以上です。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。 星野先生どうぞ。</p>
星野委員：	<p>私の今までの経歴も踏まえて、皆様と流れが違うので不愉快な思いをされる方もいるかもしれませんが、自転車とラグビーは、世界的に富裕層の方が競技をされていて、興味も持たれています。トライアスロンもそうです。</p> <p>そういった中で、何度も申し上げましたとおり、投資の対象になることや文化や観光に寄与すること、インフラ等に対してそもそもの原資となるお金を回す、経済を回すというところがあるかと思っています。</p> <p>伊豆では大分インフラ整備が進んでおり、道路も自転車が通りやすくなっている。最初の頃は車もストレスで邪魔だ邪魔だと言っていたのが、お互い思いやるようになって、伊豆の南部のほうはそれがカルチャーになっているということらしいです。</p>

	<p>先ほど申し上げたアマチュア・ボランティア・体育は今まで通りやっていただいて、これからもより頑張ってくださいですが、そこに対して、例えばエコパの活用を考えていく必要がある。サッカー強国だといいますが、プロスポーツとしてエコパを使って今5試合しかやっていない。そういった観点から新たな発想が必要とは感じています。</p> <p>聖地として、エコパでお金が回せる形にして、また強化、普及、陸上、水泳、サッカーに投資できるようになり、勝ち負けのないレクリエーション等に金や人材を回すことができると思います。私もラグビー等々やっていて、高校の体育の先生に頼りっ放しです。それだと本当に大変だと思いますので、民間の力を借りてそういった人材も外から入ってくるという流れをつくり、それが色々な競技にも普及できたらいいと思っています。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。 杉山（康）委員お願いします。</p>
杉山（康）委員：	<p>レガシーとして何を残すかというときにスポーツで歓喜が増え、その感動をどこまで持っていけるか考えます。スポーツの競技者を増やしたりとか、スポーツの参加者を増やすということは特に大切だと思います。</p> <p>その一方で、ラグビーや自転車競技、オリンピック全般、パラリンピック全般でスポーツの用具やユニホームへ勝つために科学の粋を駆使して、色々な国がそれぞれの地域で得意分野を生かしながら、しのぎを削って開発した用具等のそういった細かいところに注目されていない気がします。</p> <p>例えば静岡のそういった産業でベンチャーができて、ナイキに打ち勝つシューズメーカーができるならば、そういったところを推していくとか、自転車のメカニク部分とか、ヤマハやスズキなどとどうやって静岡が連携するかということは、重要なレガシーになってくると思います。</p> <p>もう一つは、若者をどのぐらい地方に留め置くかということです。これは大学の使命でもあります。2日ぐらい前に文科省の高等課のほうから、地方大学を魅力ある大学にするための定員増に関わる公募要領ということで企画募集がありました。静岡大学もきっと新学部をつくろうとかという構想を出すと思います。これはこのレガシーをうまく利用し若者を集めることができるチャンスであると共に、静岡県で育ったスポーツ選手を留め置くチャンスだと思います。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。 よろしいでしょうか。 (挙手する者なし)</p>



	<p>ありがとうございました。</p> <p>各委員から今御意見いただきましたので、事務局で整理をしていただいて、次回の審議につなげていきたいと思っております。よろしくお願ひします。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、事務局のほうから東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技開催の準備状況についてお話、説明をいただければと思います。</p>
横井オリンピック・パラリンピック推進課長：	<p>オリンピック・パラリンピック推進課の横井と申します。</p> <p>一通りというわけではないんですが、最近の話題を御説明させていただきます。</p> <p>資料7の右下のところに番号が、ページ数がありますが、まず5番を御覧いただきたいと思ひます。</p> <p>6月23日から25日までオリンピックの聖火リレーが開催されまして、梅雨どきではございましたけれども、3日も天候に恵まれまして、いろいろ賛否あるところではあるとは思ひんですが、大きな事件、事故もなく、274人のランナーの方も、沿道に、これも賛否あるかと思ひますが、10万人以上の方々に見守っていただきまして、無事執り行うことができました、これも皆様の御協力のたまものと思ひております。どうもありがとうございましたというのが1つ報告でございます。</p> <p>それから、9ページのところでございますが、会場別の観客数、観客上限というものが、6月21日に一旦50%もしくは1万人というようなことで決定はされましたが、7月12日以降、緊急事態宣言等が出されている場合は、また別途検討となります。観客数は、50%、上限1万人というルールに当てはめると、本県の場合どれも概数でこのぐらいの人数になるというのが仮に試算として書いてございますが、最終的にどうなるかはまだ未確定というような状況でございます。</p> <p>というのが最近の御報告でございました。以上です。</p>
富田会長：	<p>すみません。突然振りまして申し訳ございません。</p> <p>よろしいでしょうか。何か御意見、御質問ございましたら。</p> <p>(挙手する者なし)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、続きまして教育委員会の健康体育課から部活動の改革実践検討の状況について御報告をお願いいたします。</p>
近藤健康体育課課長：	<p>県教育委員会健康体育課の近藤です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>資料のほうは、お手元21ページ、右肩に資料8を御覧ください。</p> <p>まず、この部活動改革につきましては、この資料に記載はありませんが、令和2年、昨年9月に文部科学省より、生徒にとって望ましい部活動環境の構築と学校の働き方改革も考慮した部活動改革の推進を目指</p>

すといったことで、休日に教科指導を行わないことと同様に休日に教師が部活動指導に携わる必要がない環境を構築することや休日の部活動に対する生徒の希望に応えるため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備することなどが、この改革の方向性ということで発表されたものでございます。

そして、その具体的な方策として、休日の部活動の段階的な地域移行と合理的で効率的な部活動の推進といったものが示され、特に休日の部活動の段階的な地域移行ということで、令和5年度以降、段階的に実施を図るといったスケジュールが公表されまして、今年度から全国で実践研究が行われている状況です。

静岡県の場合ですけれども、資料3に令和3年度の事業計画ということで記載をしてありますとおり、運動部と文化部に関する実践研究を掛川市において、(1)のほうは運動部、(2)のほうは文化部ですけれども、水泳と吹奏楽で本年度行っていただくことといたしまして、先ほど6月14日に第1回の地域部活動の活動研究委員会を開催をしたところでございます。

今後は、この実践研究の中で課題を整理しながら、学校の働き方改革も考慮した部活動改革について方向性を検討していくこととしております。

今回ここで御紹介したのは県のほうで関わっている掛川市ですが、政令市でも同様に実践研究を行っていると聞いておりますので、お互いに情報を共有しながら、県内の他市町ともお話を共有しながら、今後の方向性について考えていくことで進めていきたいと考えております。以上です。

富田会長：

ありがとうございました。

ただいまの御報告につきまして、何か御質問があれば頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(挙手する者なし)

この地域移行につきましては、今後もこの審議会でも御意見を頂戴しなくてはならない事項だと思います。もちろん簡単なことではないことは皆さん重々御承知だと思いますので、色々なトライをしながら、静岡モデルとは決して言いませんが、一つのモデルが固まっていくと思います。

ただ、恐らく1つにはなかなか難しいと思いますので、いろんな形がそんな中で生まれてくるとも予想するわけですが、また議論をいただければと思います。ありがとうございました。

それでは、長時間にわたりましてありがとうございました。本日の審議事項が終了したということで、進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。

事務局：	<p>富田会長、議事のほうをありがとうございました。</p> <p>そして、委員の皆様、活発な熱の籠もった御意見、誠にありがとうございました。</p> <p>本日の予定した議題については全て終了いたしました。</p> <p>次回、部会の開催になりますが、具体的日程については、オリンピック・パラリンピック終了後の9月頃をめどに、改めて委員の皆様にご都合をお伺いしながら決めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>以上をもちまして、令和3年度第1回静岡県スポーツ推進審議会を閉会いたします。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>